

# 数値解析レポート No.2

43 番 若月 耕紀

①  $\mathbf{A} = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & -1 & 5 \\ 1 & 2 & -4 \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} 2 \\ -2 \\ 4 \end{pmatrix}$  のとき,  $\mathbf{Ax}=\mathbf{b}$  の解  $\mathbf{x}$  を求めよ.

授業課題で作成した LU 分解のプログラムを使用すると, LU 分解の結果は以下のようになる.

$$L = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0.5 & 1 & 0 \\ 0.5 & -1 & 1 \end{pmatrix}, U = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 0 & -1.5 & 4.5 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

この時, U 行列のランクが 2 となるので, 解である  $x$  を求める際に 0 割りをすることになり, プログラムが強制終了する. 対策方法としては, 0 割りが出現しないような行列を入力すれば良い.

また解  $x$  は行基本変形を用いて以下のように求めることができる.

$$\left( \begin{array}{ccc|c} 2 & 1 & 1 & 2 \\ 1 & -1 & 5 & -2 \\ 1 & 2 & -4 & 4 \end{array} \right) \rightarrow \left( \begin{array}{ccc|c} 1 & 0 & 2 & 0 \\ 0 & 1 & -3 & 2 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{array} \right), x = \begin{pmatrix} -2t \\ 3t+2 \\ t \end{pmatrix} \quad (t \text{ は任意定数})$$

今回は不定解となるため,  $t$  を任意定数として計算している.

②  $\mathbf{C} = \begin{pmatrix} 2 & -1 & 5 \\ -4 & 2 & 1 \\ 8 & 2 & -1 \end{pmatrix}$  の逆行列を求めよ.

C が LU 分解できるとき,  $C^{-1} = U^{-1}L^{-1}P$  と表すことができる. よって,  $L$  と  $U$  の逆行列を求めれば,  $C$  の逆行列を求めることができる.

## U の逆行列

$U$  は上三角行列であるので,  $U^{-1}$  も上三角行列である. これらを以下のように定める.

$$U = \begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & a_{13} \\ 0 & a_{22} & a_{23} \\ 0 & 0 & a_{33} \end{pmatrix}, U^{-1} = \begin{pmatrix} a'_{11} & a'_{12} & a'_{13} \\ 0 & a'_{22} & a'_{23} \\ 0 & 0 & a'_{33} \end{pmatrix}$$

$UU^{-1} = E$  であるため,

$$UU^{-1} = \begin{pmatrix} a_{11}a'_{11} & a_{11}a'_{12} + a_{12}a'_{22} & a_{11}a'_{13} + a_{12}a'_{23} + a_{13}a'_{33} \\ 0 & a_{22}a'_{22} & a_{22}a'_{23} + a_{23}a'_{33} \\ 0 & 0 & a_{33}a'_{33} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

となる. これを解くと,

$$U^{-1} = \begin{pmatrix} a'_{11} & -a_{12}a'_{11}a'_{22} & -a_{12}a'_{11}a'_{23} - a_{13}a'_{11}a'_{33} \\ 0 & a'_{22} & -a_{23}a'_{22}a'_{33} \\ 0 & 0 & a'_{33} \end{pmatrix}$$

となる. この時,  $a'_{11} = \frac{1}{a_{11}}$ ,  $a'_{22} = \frac{1}{a_{22}}$ ,  $a'_{33} = \frac{1}{a_{33}}$  である.

## $L$ の逆行列

$U$  と同様に以下のように定める.

$$L = \begin{pmatrix} b_{11} & 0 & 0 \\ b_{21} & b_{22} & 0 \\ b_{31} & b_{32} & b_{33} \end{pmatrix}, \quad L^{-1} = \begin{pmatrix} b'_{11} & 0 & 0 \\ b'_{21} & b'_{22} & 0 \\ b'_{31} & b'_{32} & b'_{33} \end{pmatrix}$$

$LL^{-1} = E$  であるので,

$$LL^{-1} = \begin{pmatrix} b_{11}b'_{11} & 0 & 0 \\ b_{21}b'_{11} + b_{22}b'_{21} & b_{22}b'_{22} & 0 \\ b_{31}b'_{11} + b_{32}b'_{21} + b_{33}b'_{31} & b_{32}b'_{22} + b_{33}b'_{32} & a_{33}a'_{33} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

となる. これを解くと,

$$L^{-1} = \begin{pmatrix} b'_{11} & 0 & 0 \\ -b_{21}b'_{11}b'_{22} & b'_{22} & 0 \\ -b_{31}b'_{11}b'_{33} - b_{32}b'_{21}b'_{33} & -b_{32}b'_{22}b'_{33} & b'_{33} \end{pmatrix}$$

となる. この時,  $b'_{11} = \frac{1}{b_{11}}, b'_{22} = \frac{1}{b_{22}}, b'_{33} = \frac{1}{b_{33}}$  である.

## $C$ の逆行列

課題 5 で作成したプログラムで  $C$  を LU 分解すると以下ようになる.

$$L = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ -0.5 & 1 & 0 \\ 0.25 & -0.5 & 1 \end{pmatrix}, \quad U = \begin{pmatrix} 8 & 2 & -1 \\ 0 & 3 & 0.5 \\ 0 & 0 & 5.5 \end{pmatrix}$$

上記を利用して,  $L$  と  $U$  の逆行列を求めると以下ようになる.

$$L^{-1} = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0.5 & 1 & 0 \\ 0 & 0.5 & 1 \end{pmatrix}, \quad U^{-1} = \begin{pmatrix} 0.125 & -0.08333 & 0.3030 \\ 0 & 0.3333 & -0.03030 \\ 0 & 0 & 0.1818 \end{pmatrix}$$

これらを利用して  $C^{-1} = U^{-1}L^{-1}P$  を計算すると以下ようになる.

$$C^{-1} = U^{-1}L^{-1}P = \begin{pmatrix} 0.3030 & -0.06818 & 0.08333 \\ -0.03030 & 0.3182 & 0.1667 \\ 0.1818 & 0.09090 & 0 \end{pmatrix}$$

- 2 2 分法とよく似た方法にはさみうち法がある. はさみうち法について調査し, 2 分法との違いをまとめよ. また, 同じ条件で 10 回繰り返した時の値について比較せよ.

はさみうち法とは, 2 分法を少し改良したものである. 2 分法では区間の中間を計算していたが, はさみうち法では区間の端点を結ぶ直線と  $x$  軸との交点の座標を使用する. はさみうち法は, 初期値が悪いと 2 分法よりも収束が遅くなるが, 初期値が解に近ければ収束は早くなる.

はさみうちについて、作成したプログラムをリスト 1 に示す。

リスト 1 False\_Position

---

```
1 void False_Position(double a1, double a2, double (*f)(double x)){
2     int i;
3     double nex;
4
5     for(i = 1; 10 >= i; ++i){
6         nex = (a1 * f(a2) - a2 * f(a1)) / (f(a2) - f(a1));
7
8         printf("%2d: x=%.9f\n", i, nex);
9
10        if(0 > f(a1) * f(nex)){
11            a2 = nex;
12        }else{
13            a1 = nex;
14        }
15    }
16 }
```

---

基本的なプログラムの構成は課題 3 と同じであるため、説明を省略する。変更点である nex については、x 軸を  $0 \cdot x + 1 \cdot y + 0 = 0$  として交点の座標を求めた。

このプログラムを用いて  $f(x) = x^4 - 3x^2 + 5x - 9$ , 区間  $[1, 3]$  の解を求める。実行した結果を以下に示す。

はさみうち法	2 分法
1: x = 1.181818182	1: x = 2.000000000
2: x = 1.330162049	2: x = 1.500000000
3: x = 1.447303924	3: x = 1.750000000
4: x = 1.536568968	4: x = 1.875000000
5: x = 1.602390729	5: x = 1.812500000
6: x = 1.649612800	6: x = 1.781250000
7: x = 1.682775076	7: x = 1.765625000
8: x = 1.705697489	8: x = 1.757812500
9: x = 1.721362780	9: x = 1.753906250
10: x = 1.731983564	10: x = 1.751953125

区間  $[1, 3]$  での解は  $x \approx 1.753663501$  であるため、今回の場合では、はさみうち法の方が収束が遅かった。

### 3 ヤコビ法やガウス・ザイデル法が収束しない条件を、例をあげながら解説せよ。

ヤコビ法、ガウス・ザイデル法とは、 $n$  元連立一次方程式を反復法で解く手法の 1 つである。これらが真の解に収束する条件は以下のようになる。

- 第  $i$  行の対角項以外の成分の絶対値の和よりも、対角項の絶対値が大きい

上記の条件を満たさなかった場合、ヤコビ法とガウス・ザイデル法が収束しない。よって収束しない条件は以下のようになる。

- 第  $i$  行の対角項以外の成分の絶対値の和よりも、対角項の絶対値が小さい

例として、以下のように定めた場合について各方法の解の遷移を示す。

$$\mathbf{A} = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 3 & 1 & 2 \\ 2 & 3 & 1 \end{pmatrix}, \mathbf{b} = \begin{pmatrix} 14 \\ 11 \\ 11 \end{pmatrix}, \text{初期値} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \text{正しい解} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}$$

まず、ヤコビ法での解の遷移を以下に示す。

$$\begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 14 \\ 11 \\ 11 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} -41 \\ -53 \\ -50 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 270 \\ 234 \\ 252 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} -1210 \\ -1303 \\ -1231 \end{pmatrix} \rightarrow \cdots$$

次に、ガウス・ザイデル法での解の遷移を以下に示す。

$$\begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 14 \\ -31 \\ 76 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} -152 \\ 315 \\ -630 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1274 \\ -2551 \\ 5116 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} -10232 \\ -20475 \\ -40950 \end{pmatrix} \rightarrow \cdots$$

上記の結果より、収束条件を満たさない場合、どちらの方法でも、解が収束せずに発散していくことがわかる。

## 4 感想

今回のレポートでは、今まで習ったことを改めて学習することができた。授業課題として実装していないものもあったため、少し忘れていた部分があり、苦労した。これから編入試験もすることになるため、課題として出ていなくても積極的に学習をし、理解を深めていきたいと思う。